

東証、史上最高値

終値3万9098円、34年ぶり更新

22日の東京株式市場は、日経平均株価(225種)がバブル経済期だった1989年12月29日の水準を上回り、約34年ぶりに史上最高値を付けた。終値ベースと取引時間中のいずれも最高値を更新した。22日の終値は前日比836円52銭高の3万9098円68銭。取引時間中には一時、3万9156円97銭を付けた。企業業績の拡大を背景に、賃金と物価がそろって上昇する経済の好循環に期待が高まった。



3万9098円68銭で約34年ぶりに史上最高値を更新した日経平均株価終値を示すモニター＝22日午後、東京都・東新橋

2023年度の企業業績は、過去最高水準となる見通しだ。新型コロナウイルス禍後、経済活動が回復。外国為替市場の円安ドル高基調が輸出企業の業績を押し上げた。訪日客の増加もサービス業を支え、株価上昇につながった。

ロシアのウクライナ侵攻後、歴史的な物価高が続いた。企業は商品を値上げする一方、賃上げの動きも加速させた。株式市場では長年続いたデフレからの脱却に近づいたとの受け止めが広がった。企業の経営改革が進んでいることも海外投資家の日本株買いを促した。

日経平均は1990年以降、下落基調に転じ、低迷が長引いた。リーマン・ショック後の2009年3月10日には終値としてバブル後の最安値となる7054円98銭を記録。12年に当時の安倍晋三首相の経済政策「アベノミクス」が始まったのを機に上昇基調を取り戻した。13年に日銀が導入した大規模な金融緩和策も株価を支えた。

24年は1月に能登半島地震が発生し、地方経済への悪影響が危ぶまれている。11月には米大統領選が控えるなど国内外にリスクが存在する。